

県域水道一体化への参加について

令和4年12月21日、大和郡山市は、県域水道一体化に参加することを表明しました。
参加表明に至ったこれまでの経過と理由について、市民のみなさまにお知らせします。

◆ 経 過

本市では、各市町村の水道の貯金（内部留保資金）や負債に大きな違いがあることから、持ち寄る貯金や負債等に一定のルールを定めて、一体化すべきであるとして、一体化への参加を令和3年1月から見送ってきました。

その間、持ち寄る貯金や負債のルールづくりや、災害対策にも役立つ浄水場の存続をめざして要望と協議を行ってきました。

◆ 一体化参加の条件が変更になりました

令和4年11月29日の一体化に向けての協議会において本市の要望に応えるかたちで、新たなルールが認められ、市内の浄水場が残ることになりました。

大和郡山市には、資金が優先的に配分されます

本市は、企業団に引き継ぐ資産が大きいと、資金が優先的に配分されるルールが新たに認められました。

〔 当初10年間の優先投資額約16億円（R2決算より試算）
参考：30年間投資見込額約320億円（R7～R36） 〕

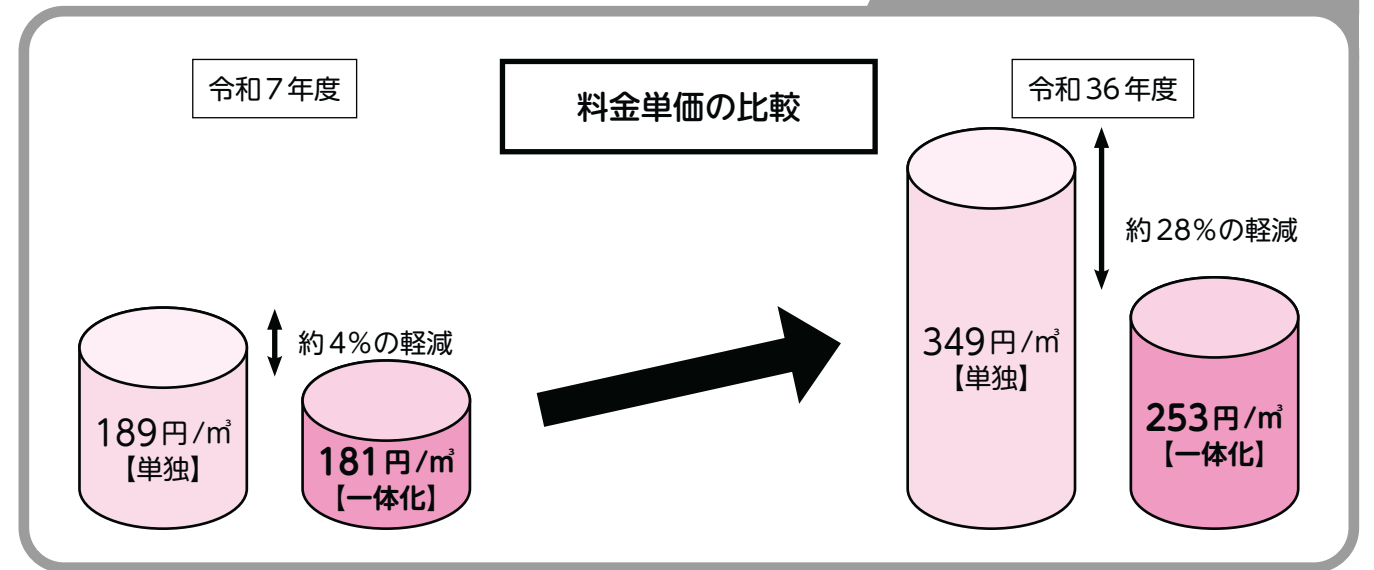
昭和浄水場が残ります

廃止予定だった昭和浄水場が残ることになりました。
昭和浄水場は、県内でも有数の規模を誇り、災害時のバックアップ水源としても役立ちます。[更新費用44.6億円]

◆ 水道料金が抑えられます

単独経営と、一体化に参加した場合との水道料金について、今後30年間の試算を行ったところ、一体化に参加した場合、料金が抑えられる結果となりました。

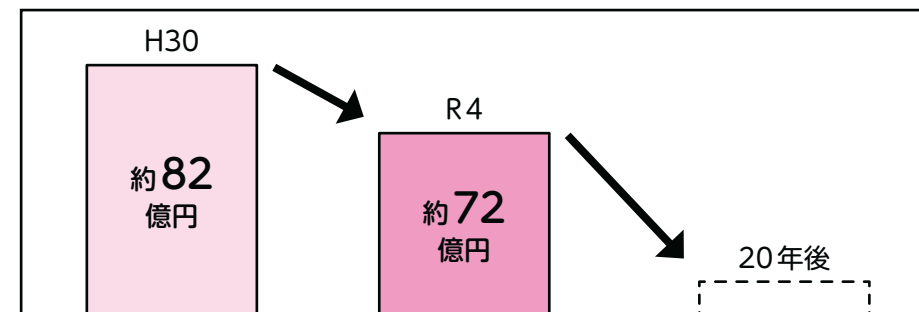
30年後のシミュレーション



※水道料金は、口径によって異なります。料金単価は、すべての口径の平均単価です。

◆ 水道の貯金（内部留保資金）は、減っています

平成30年度末 約82億円 ⇒ 令和4年度末見込 約72億円



※浄水場の更新による減少で44.6億円。
※古い水道管の取替による減少で年間約3億円。

4年間で約10億円、貯金は減りつつあります。これは、漏水事故等を防ぐため、古い水道管の取替を積極的に進め、そのために貯金を使うからです。このままでは、20年後には、貯金がなくなる恐れもあります。

しかし、一体化に参加すれば、貯金をすべて企業団に引き継いでも、これまで以上に古い水道管の取替のための資金が配分されることとなります。

一体化に参加しても、災害時に必要な自己水源である市内の昭和浄水場が存続更新され、優先的な資金配分等により老朽化した水道管の改修も促進されます。これらを総合的に判断し、安全で安心な水道水を少しでも安く提供していくために、県域水道一体化に参加することが、市民にとって有益な選択であると判断しました。

一体化参加についての市民説明会を開催します。

日時＝1月22(日) 14時～

場所＝DMG MORI やまと郡山城ホール レセプションホール

問合せ＝業務課(☎53-3661)